

(様式例1)

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立高山工業高等学校

学校番号

59

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた個性豊かで明朗快活な人間性を育成する。 (2) 基礎的・基本的な学力を身に付けさせるとともに、コミュニケーション能力や問題解決能力を育成する。 (3) 勤労を尊び、たくましく生きる力を身に付け、工業を学ぶことに誇りと自信を持たせる。 (4) 学習指導および部活動指導等を充実し、文武両道に活躍できる生徒を育成する。
2 現状の分析	○明るく素直な生徒が多く、挨拶、礼儀、身だしなみ等は概ね良好で、安定した学校生活を送っている。 ○積極的に資格取得やものづくりに取組み、習得した知識や技能を生かして進路目標を達成するとともに地域社会にも貢献している。 ▲義務教育段階の基礎的な学力や学習習慣が身に付いていない生徒がみられ、キャリアプランニングが不十分な生徒への対応が必要。 ▲状況を正しく認知し、周りに及ぼす影響を考えて対応することができない生徒同士のトラブルが増加している。
3 学校の抱える課題	・専門的な知識や技術で地域に貢献する人材を育成するため、前提となる義務教育段階の基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 ・個に応じた指導をさらに進め、あらゆる場面を通じて生徒が自ら考え行動できるよう指導し、自己実現力の育成を図る必要がある。 ・飛騨地区唯一の工業高校として、地域と連携したものづくり活動を通して地域と一体となった人材育成を図る必要がある。 ・本校の特色ある取組や成果について、保護者、地域、小・中学生及びその保護者に対してさらに周知を図る必要がある。
4 今年度の具体的な重点目標	・学校課題を踏まえた令和4年度のスクール・ポリシー及び新学習指導要領を踏まえた教育課程について策定する。 ・ICTを活用した授業改善により学習意欲を高め、基礎的・基本的な学力を定着させ、主体的な学習態度を育成し問題解決能力を伸長する。 ・共感的な理解に徹し自立心を持ち自立する生徒の育成と、自他共に尊重し望ましい人間関係を作る力の育成。 ・望ましい勤労観や就業観を持ち、自らの進路を主体的に選択できるキャリア教育の充実を図る。 ・地域社会に貢献できる人材の育成に努め、地域や各種関係団体等と緊密に連携し、一層開かれた学校づくりを推進する。

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導	① 新学習指導要領を踏まえた教育課程過程（評価法の策定）	① 学習指導委員会、職員会議での協議	① 令和4年に向けた評価法についての方針の決定	A	○公開授業や研修等でICTを活用した学習指導が増加 ○基礎力診断テストは入学時から3年間で向上傾向維持 ○地域への専門教育の還元 ▲評価に関する内規改定 ▲ICTを活用できる教員の拡充 ▲事業の継続	A B C D
	② 学習意欲の向上と基礎的・基本的な学力の定着（ICT活用による授業改善）	② 授業アンケート、生徒実態調査、定期考査得点状況、基礎学力診断テスト状況等	② 習熟度別授業の実施、ICT活用授業公開や研修を実施し活用促進、3年次の基礎力は入学時より向上傾向維持	B		
	③ 主体的な学習態度の育成と題解決能力の伸長（地域連携、交流活動の活用等）	③ 地域連携事業の評価と分析、商品開発状況、販売実績、アンケート等	③ 中学生ロボット大会や小中学生へのプログラミング出前授業の開催、デザイン思考ワークショップ、地域連携による商品開発等実施	B		
生徒支援	① 自立心を持ち自立する生徒の育成（共感的な指導、共通理解に基づく指導等）	① 身だしなみ指導の状況、迷惑調査の結果、生徒の出欠状況等	① 生徒による校則改定の手順の策定、生徒会と連携した挨拶運動推進、MSリーダーズ活動への支援、ネット・スマホに関する指導等実施	B	○生徒支援部の設置 ○校則改定手続きの見直し ○問題行動、交通事故件、遅刻者の減少	

	② 自他共に尊重し望ましい人間関係を作る力の育成（個に応じたきめ細かな指導、生徒理解に関する職員研修、SC、SSWの活用等）	② 担任等との面談状況、ケース会議の実施状況、外部専門家の要請の回数等	② ケース会議の実施、SC、SSWの活用、個別の教育支援計画作成、職員間の情報共有、SCによる講和や1年生への出前講座等実施	A	○個別の支援計画の充実 ▲SNSの使用モラル向上 ▲対人スキル向上
進路指導	① 様々な進路選択肢への対応（高度な資格取得の推進、各種コンテスト等への挑戦、進学補習等）	① 資格の取得状況、ものづくりコンテスト等の成績、進学補習実施等	① 検定・資格取得推進、熟練技能者による指導、進学補習等	B	○国立四大への進学と希望者の就職率100%達成 ○キャリア・パスポート活用
	② 主体的な進路選択（キャリア・パスポートを活用したキャリアプランニング能力向上）	② 進路状況、企業見学の実施状況、卒業生と語る会の実施状況、卒業生の追跡調査等	③ 基礎力診断テスト、面接指導、卒業生による進路講演会、進路ガイダンス、企業見学、インターンシップ、PTフォーラム、公務員セミナー等実施	A	○進路講演のWeb実施による参加者増 ▲自己表現能力向上 ▲コロナ禍での体験活動 ▲地元就職率の低下
学校経営	① 令和4年度スクール・ポリシー、教育課程、評価法の策定	① 学校運営協議会の協議、承認	① 生徒、保護者、職員が参画し学校運営協議会の協議、承認を得て策定	A	○令和4年度スクール・ポリシー、教育課程を策定
	② 施設・設備の整備	② 整備実績	② BIM、メカトロニクス実習装置の導入	B	○メディアへの効果的な広報
	③ 社会貢献活動の推進と地域連携（工業技術を生かした地域への貢献、ボランティア活動等）	③ 活動実績、報道機関からの取材、新聞等への掲載回数等	③ 中学生ロボット大会、小中学校へのプログラミング出前授業、小学校とのものづくり交流、ものづくりボランティア、特別支援学校等とのWeb交流等実施	A	○リーフレットやポスター配付 ○継続的なHP更新 ▲継続的な設備の更新 ▲感染状況による活動中止
	④ 広報活動の充実（ホームページデザイン更新とリーフレットの作成、コンテンツ更新等）	④ オープンキャンパス、一日入学の参加者数、進路希望調査の状況等	④ ホームページデザイン更新、学校紹介ポスター配付、学校紹介リーフレット、オープンキャンパス、卒業作品展の案内配付等実施	B	▲中学生進路希望調査における志願者減少

II 学校関係者評価 実施年月日：令和4年2月14日

・個別の指導を充実するため生徒支援部を設置したのはよい。外部機関によるサポートも活用し、今後も生徒に対するきめ細かい指導を継続し地域を支える人材を育成してほしい。

・実践的な技術や専門的な知識を学ぶとともに、社会人として必要な資質も身に付けた生徒を育成してほしい。

・工業高校の学びを小学生や中学生に広める活動を続け、小中学生やその保護者に魅力を伝える機会を継続してほしい。

・卒業後の進学者も多い。中学生に大学進学を見据えた高校選びの選択肢が多様化すると感じた。

・校則については生徒の個性を大切にしつつ、生徒自身が気付く指導をしてほしい。

・ICTの活用は、小・中・高における児童生徒の発達段階に応じた指導や活用が必要である。

・コロナ禍においても教育活動が途切れないよう、様々な工夫により乗り越えられている。

12 来年度に向けての改善方策案

・スクール・ポリシーを踏まえ、新学科名称の特徴となる学習内容・活動等及び学習評価の工夫・改善を進める。

・ICTを効果的に活用する学習活動をさらに充実し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践を行うとともに、非常変災時等においても学びを止めない体制を整える。

・生徒支援部を要とし、生徒の個に応じた共感的な指導及び、外部連携も活用したきめ細かい支援を充実させ、望ましい人間関係を構築できる生徒を育成する。

・基礎力診断やキャリア・パスポート等の活用を通じて、学習習慣の改善や各々のコミュニケーション能力の育成を行い、希望進路の実現につなげる。

・学校行事、生徒会、部活動の活動内容を吟味し、自己肯定感や自己管理能力を高めるために生徒が自ら考え行動する場や機会を設定する。

・「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」等の活動成果を踏まえ、「ものづくり」を通じた地域連携活動を精選し、地元企業とも連携して、地元就職率を上げる。

・中学生及びその保護者、中学校の先生方に「ものづくり」の魅力伝えるため、ロボット競技会や出前授業等を継続実施するとともに、様々な手段を用いた情報発信を通じて学校の魅力を伝え入学生の増加につなげる。